○　2学期からA男とB子を同じ班にした。学習面でB子がA男に援助することと，それをA男が素直に受け入れB子に自信を持たせられるのではないかという期待からであった。

よさを認め，ほめたことが学習意欲を高揚

○　校庭掃除のとき，友達が嫌がってそのままにしておいた草やゴミを一人で捨ててくる。帰りの会で「A男君は，みんながしらんぷりしてたゴミ捨てを自分からやったんだよ。」とほめる。

○　算数の時間の復習を家でしてくるように指示。期待はしていなかったのにしっかりやってきた。「A男君，えらいなあ。」とみんなの前でほめる。

○　ドリルで百点をとる。今までとれなかったよい点数をとれるようになったのには，E教諭も驚いている。

○　日記など大嫌いだったA男が4ページも書いてくるなど，生活面でも変わりつつある。そこでA男の日記に「先生かんげきした。こんなにくわしく家に帰ってからのことを書いてくれて。あしたもおしえてね。」と記す。

親切さのよさに自信が持てないB子

○　B子は日記に，自分はT子に親切にしているが嫌われていると書いてくる。そこで，T子と行動を共にすれば，少しでもそのような感情がなくなるのではないかと考え，T子といっしょにうさぎの餌を隣の学級に持っていかせる。

B子の世話をするA男

○　B子は家で，カッターナイフで誤って左手の指の筋を切ってしまった。病院で手術をしなければならない程の傷であった。特にE教諭が頼んだ訳でもないのに，A男は翌日から給食の配膳から学用品の出し入れまで，こまめに手伝うようになった。特に用事がないはずのA男が帰らないでいるので，訳を聞いてみるとB子を待っているのだという。

A男のよさに触れて喜ぶB子の母

○　B子の母親から「今までは，乱暴な子どもとばかり思っていたA男がとても優しいのに驚きました。A男が毎日遊びに来てくれ，B子が明るくなりとてもありがたい。」との手紙が届いた。

互いのよさを認め合う学級集団

○　放課後，校庭でB子がA男たちとドッジボールをして遊んでいる。これまでには見られなかったB子と仲間たちの姿である。けががまだ完治していないB子は審判をしている。みんなでワイワイ言いながらとても楽しそうな光景である。

（友達といっしょに遊べるようになったB子）

＜実践を通しての考察＞

担任のE教諭は，「子供たちのよさを生かし，伸長するために，まず，一人一人のよさを『よさのレーダーグラフ』や『聞いてねカード』などを使って見いだしました。そして，一人一人のよさ